


No. 1

国際協力事業団
エル・サルヴァドル共和国
企画 省

エル・サルヴァドル共和国 平成7年度食糧増産援助 調査報告書

平成7年3月

JICA LIBRARY

J 1124862 (2)

JICA
609
813
GRF
LIBRARY

(財)日本国際協力システム

無調一

95-175

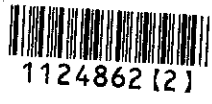
エル・サルヴァドル共和国

平成7年度食糧増産援助

調査報告書

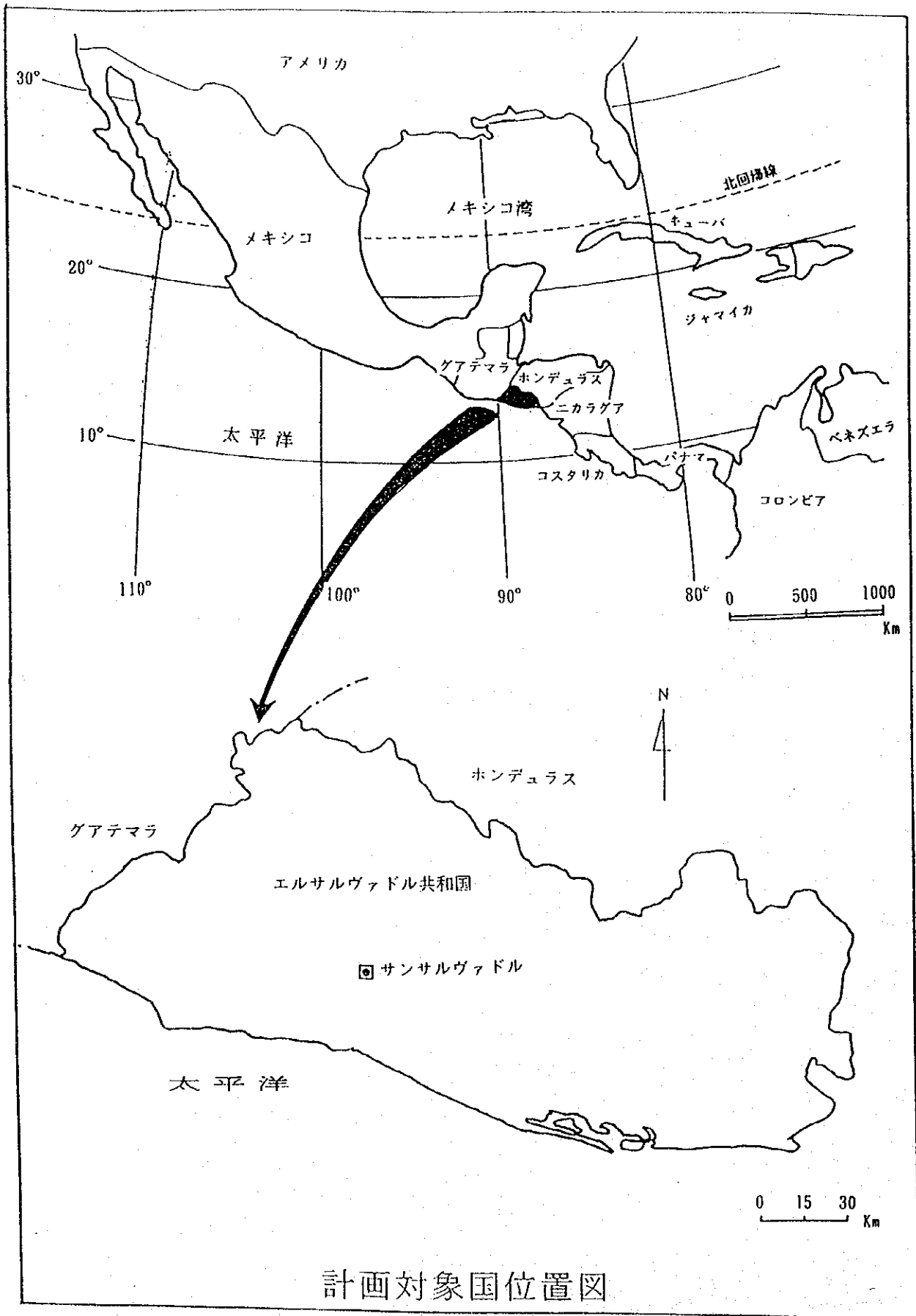
平成7年3月

(財)日本国際協力システム



1124862 (2)

本調査は、財団法人日本国際協力システムが国際協力事業団の委託を受けて実施したものである。



計画対象国位置図

目次

地図

目次

ページ

第1章	要請の背景	1
第2章	プロジェクトの周辺状況	
	1. 農業の概況	2
	2. 農業開発計画	3
	2-1 上位計画	3
	2-2 2KRの位置付け	4
	3. 資機材の生産流通状況	4
	4. 他の援助国、国際機関等の計画	5
	5. 我が国の援助実施状況	5
	6. 関連法規等	6
第3章	プロジェクトの内容	
	1. プロジェクトの基本構想と目的	7
	2. プロジェクトの実施運営体制	7
	3. 資機材選定計画	8
	3-1 配布／利用計画	8
	3-2 維持管理計画／体制	8
	3-3 品目・仕様の検討・評価	8
	3-4 選定資機材案	12
	4. 概算事業費	12
第4章	プロジェクトの効果と提言	
	1. 裨益効果	13
	2. 提言	13
資料編		
	1. 対象国主要指標	
	2. 参照資料リスト	

第1章 要請の背景

エル・サルヴァドル国（以下「エ」国と省略する）は、1979年以降12年間にわたって続いた内戦後、「経済社会開発計画（1989～1994年）」を策定し、「国家再建計画」に基づいて各分野の復旧、開発を行っており、これらは貧困対策、産業振興等による経済安定、民主的体制の強化等を軸としている。

このうち農業分野においては、国内の食糧確保を最優先に考え、土地の有効利用および、価格政策による農民の生活改善が課題とされているが、復興途上の同国にはそれに必要な資機材が不足しており、食糧作物生産者の大半を占める中小農民の需要が満たされていない状況である。そのため、同国は昨年度に引続き食糧増産計画を策定し、我が国に対して食糧増産援助を要請越した。本プロジェクトでは肥料2品目、農薬3品目について要請されており、肥料は尿素と硫酸、農薬はすべて除草剤である。表1-1に要請品目と数量を示す。

表1-1 要請資材の品目と数量

No.	標準要請 資機材リストNo.	品目	仕様	数量	優先 順位	カテ ゴリー
1	FA-001	UREA 尿素	46%	3,000t	2	肥料
2	FA-002	SULFATO DE AMONIO 硫酸	21% N	19,000t	1	〃
3	HE-001	2,4D-AMINE 2,4D-アミン	720g/L SL	52,000L	3	農薬
4	HE-005	ATRAZINE アトラジン	80% WP	20,000kg	4	〃
5	HE-020	GLYPHOSATE グリフォセート	36% SL	15,000L	4	〃

(出典：要請関連資料)

第2章 プロジェクトの周辺状況

1. 農業の概況

「エ」国の農業生産は1980～1988年の間、年平均1.4%の減産であったが、1990年にはコーヒー及び砂糖キビの生産が伸びたために（伸び率7.4%）、過去10年間における最高の成長率3.4%を達成した。同国は外貨収入の4割以上をコーヒーの輸出に依存しており、次いで砂糖、綿となっている。一方、主要食糧の需給を見ると、米とソルガムの需給バランスは過去3年間プラスであるが、自給を達成しているのはソルガムのみで、その他の作物については未だに輸入に依存している状態である（表2-1～2）。

表2-1 主要食糧の概要

(単位：qq(Quintal)=46kg)

作物名 <年>	期首在庫 (A)	生産量 (B)	輸入量		国内需要 (E)	輸出量 (F)	需給バ ランス(A+B+ C+D-E-F)
			援助 (C)	商業 (D)			
米							
<1991>	140,100	881,500	88,845	472,291	1,169,365	4,635	408,736
<1992>	278,436	1,016,860	4,275	370,197	1,117,993	59,853	491,922
<1993>	275,000	1,052,350	—	617,948	1,217,521	28,805	698,972
ブリーホル豆							
<1991>	61,500	1,461,600	51,028	159,911	1,430,792	3,203	300,044
<1992>	181,270	1,354,100	505	173,852	1,717,539	37,240	-45,052
<1993>	134,200	1,350,900	—	121,495	1,733,856	33,653	-160,914
トウモロコシ							
<1991>	807,400	10,962,800	115,300	18,876	12,960,000	—	-1,055,624
<1992>	1,648,266	15,338,800	—	577,659	13,654,321	33,321	3,877,083
<1993>	697,400	13,698,400	—	49,669	14,302,744	62,443	-19,056
ソルガム							
<1991>	304,100	3,540,900	—	—	2,960,000	—	885,000
<1992>	646,855	4,655,500	—	—	4,356,958	—	945,397
<1993>	22,000	4,447,600	—	—	4,356,157	—	113,443

(出典：要請関連資料)

表2-2 年度別主要食糧自給率推移

作物名 \ 年度	1991	1992	1993
米	75.4 %	91.0 %	86.4 %
ブリーホル豆	84.6 %	100.0 %	95.8 %
トウモロコシ	100.0 %	78.8 %	77.9 %
ソルガム	100.0 %	100.0 %	100.0 %

(出典：農牧省資料)

同国の総人口は5,637千人（1993年）、人口増加率は1.4%（1980～1991年平均）である。また、一人一日当たりの摂取カロリーは、2,317カロリーで世界平均の2,696カロリーに比べやや劣っている。

同国においては1992年、1993年と穀物の収穫は比較的好調であった。具体的な数量は確認されていないが、我が国の2KRが相当の効果をもたらしていることを農牧省は評価している。しかし、水不足にも悩み、肥料や農薬そして農機具の購入もままならない多くの農民の生活改善は遅々として進まず、農村地帯には貧困など多くの問題を抱えている。

本プロジェクトの対象地域は表2-3の通り全国に亘り、対象農家は42万戸、対象面積は102,666haである。

表2-3 対象地域内対象作物の作付面積及び調達資機材の使用対象地区

作物名	地域名	作付面積 (ha)	うち、調達資機材仕様 対象地区 (ha)	対象農家 戸数
トウモロコシ	全国レベル	320,880	102,666	420,000
ソルガム		148,890		
フリーホール豆		79,870		
米		16,520		

(出典：要請関連資料)

2. 農業開発計画

2-1 上位計画

「エ」国では、「経済社会開発計画（1989～1994年）」で経済成長を目標としてかけ、低所得者の生活改善、福祉の向上を図るために、1989年から1990年を経済安定化達成の期間と位置づけ、1990年から1994年を今後の経済の方向づけの期間と設定した。この計画に基づいた「国家再建計画」は、内戦の被害を受けた分野及び地域の復興、緊急性の高いものを優先的に支援するもので、特に居住地から追われた農民などの再定住、元反政府軍の社会復帰、インフラの修復に重点がおかれている。

国家再建計画（NRP）の主要目的は以下の事項である。

- ・紛争地帯で被害を被った人々、さらに戦闘員が通常の生活に復帰し、両者が融和して市民生活を送る事が出来るように支援する。
- ・内戦によって最も被害を受けた地域の社会、経済、環境状態の回復

- ・内戦中に破壊、破損したインフラの再建
- ・国の再建に国民の全てが参加できる民主化の促進

2-2 2KRの位置付け

同国政府は、農業セクターにおける生産拡大、生産性の向上による各農家の収入増、雇用の拡大、農民の定着と農村地帯の活性化と振興に力を注いでいる。

国内の食糧自給自足をはかるためには基礎穀物の増産が基本であるが、硫安を例に挙げれば、国内生産量6,211t (1991/92年) に対し輸入量が32,975t (1991/92年) と、かなりの部分を輸入に頼っている状態であり、2KRは乏しい外貨の流出を防ぐうえで極めて重要な意義を有している。

3. 資材の生産流通状況

「エ」国の肥料、農薬の輸出入の状況は、表2-4で示す通り、肥料は輸出に対し輸入額が圧倒的に多いのに対して農薬は輸入額の3割相当ほどの輸出がある。

表2-4 肥料、農薬輸出入統計 (1991年)

(単位：千ドル)

資機材品目	輸出額	輸入額
肥料	300	25,000 *
農薬	3,000 *	10,000 *

注) *FAO推定値

(出典：2KR国別データベースより算出)

また、同国の肥料に関する統計は表2-5の通りまとめられる。

表2-5 肥料統計 (1990/91年)

(単位：t)

成分	生産	輸入	輸出	消費
N (窒素)	11,169	40,997	339	53,218
P (リン)	110	21,330	6,300	18,920
K (カリ)	—	3,230	—	3,159

(出典：2KR国別データベースより算出)

窒素及びリンは国内生産が行われているが、カリについては生産されていない。窒素は僅かに輸出があるがその量は輸入量の1%以下である。またリンは消費量の約30%相当を輸出している。

以上により、同国の肥料と農薬については他国からの輸入に依存しているところが多いと言える。

4. 他の援助国、国際機関等の計画

「エ」国に対する国際開発金融機関、国連機関等の1991年の援助支出額は合計5,260万ドルであり中米の中では、ニカラグア、ホンデュラス、コスタリカに次いで多い。農業分野への援助としては国際農業開発基金（I F A D）の「中部地域小規模農家開発計画（1992年）」がある。また、NGOの活動は内戦の激しくなった1980年代から非常に活発に行なわれており、エル・サルヴァドル政府筋ばかりでなく広く欧米諸国や国際機関などにその献身的な活動及びそれらの成果が知られる結果となった。これらNGO団体が限られた資金にて政府機関では対応出来ない現地に密着したプロジェクトによって効果的な成果を挙げている事より、世銀やU N D P等の国連機関はもとよりD A C諸国もあらためてNGO団体の活動を見直すと共に、次第に「エ」国に於けるプロジェクト実施の際に積極的にNGO団体を活用する方針を進めるようになったという経緯がある。

5. 我が国の援助実施状況

「エ」国では1979年以降12年間にわたって内戦が続いたため、我が国の「エ」国に対する協力は経済協力関係者の派遣を伴わない機材供与型の無償資金協力が中心であった。しかしながら1987年に、我が国は真の中米和平が達成されれば同地域の復興開発に出来る限りの援助を実行する意向を表明し、1992年1月に政府とゲリラ（F M L N）との間で和平合意が達成すると、早速同年3月には「緊急支援パッケージ」として、5億円のノンプロジェクト無償援助及び帰還兵士・内戦避難民に対する緊急援助を行い、更に同年7月には経済協力調査団を派遣して、先方政府関係者と今後の「エ」国の復興開発の協力に対する協議を行い、具体的に同国が緊急に必要としている援助候補案件等に関してこれからの経済協力の方向付けを確認した。

2 K Rの実績は表2-6の示す通りであり、1988年に再開されて以来毎年行われている。

表2-6 食糧増産援助計画実績

(単位：億円)

82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94
3.0	—	—	—	—	—	3.0	3.0	2.5	3.0	4.0	5.0	5.0

(出典：2KR国別データベース)

内容的には、一般的に普及している品目が多く、特に硫安は1990年以降毎年調達されている。

なお、農業分野での一般無償資金協力は、1977年度以降は実績がない。

6. 関連法規等

「エ」国には農薬、肥料、その他農業資材の販売及びその使用を規制する法律があり、植物衛生局検査管理課が統括している。同国で販売・加工される農業資材はこの法律に基づき登録され、登録の有効期限は3年間である。

第3章 プロジェクトの内容

1. プロジェクトの基本構想と目的

「エ」国は国家再建計画の一環として、内戦後の社会基盤を強化するため、帰還兵の雇用促進と農村の活性化及び農民の生活水準を向上させ、ひいてはこれら農民の農村への定住化促進を計画しているが、主要食糧を生産している中小農民は、社会的、経済的要因により最低限必要な農業資材が不足しており、この事が主要食糧の自給率向上に必要な単収の増加を妨げている。本プロジェクトは、この様な現状をふまえて農業資材の不足を補う事を目的としている

2. プロジェクトの実施運営体制

調達資材の配布体制については、表3-1に示す通り、企画省外資局により選定された民間企業が各農民に対して販売するシステムがとられている。なお、民間企業の選定は、資材の到着に先立って、入札により行われる。

表3-1 実施体制

作業	作業実施機関	実施監督機関	責任者役職
通関・一時保管	購入企業	購入企業	輸入・販売業務課課長
輸送（港→地域倉庫）	購入企業	購入企業	購入企業
保管（地域倉庫）	購入企業	購入企業	購入企業
配布（地域倉庫→配布地区）	購入企業	購入企業	購入企業

(出典：要請関連資料)

3. 資材選定計画

3-1 配布／利用計画

配布先は全国に広がり、企画省が資材を民間企業に売却し、民間企業はそれを各農民に販売する（表3-2、図3-1）。

表3-2 配布計画

資機材名	対象作物	配布地区 (配布先)	販売／無償 配布の別	数量	対象面積 (ha)
尿素	米、ソラマメ、 トウモロコシ、ソラマメ	全国	販売	3,000 t	102,666
硫安	米、ソラマメ、 トウモロコシ、ソラマメ	全国	販売	19,000 t	102,666
2,4D-アミン	米、ソラマメ、 トウモロコシ、ソラマメ	全国	販売	52,000 L	102,666
アトラジン 80%WP	米、ソラマメ、 トウモロコシ、ソラマメ	全国	販売	20,000 kg	102,666
グリフォセート 36%SL	米、ソラマメ、 トウモロコシ、ソラマメ	全国	販売	15,000 L	102,666

(出典：要請関連資料)

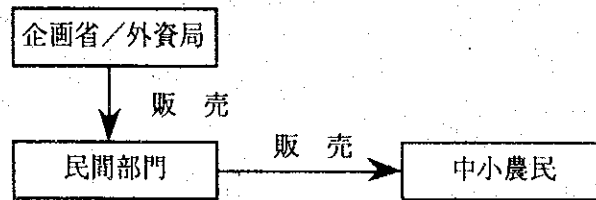


図3-1 配布のフローチャート

3-2 維持管理計画／体制

供与された資材は各エンドユーザー（農民）によって維持管理される。

3-3 品目・仕様の検討

1. 尿素

<3,000 t>

水に溶解しやすい速効性の窒素質肥料で、吸湿性があるため粒状化されている。窒素質肥料の中で成分含有率が最も高く、土壌を酸性化する副成分を含まない。成分の尿素態

窒素は土壤中でアンモニア態窒素に変わり、さらに畑状態では速やかに硝酸態窒素に変わって作物に吸収される等の特徴があるため、畑作物用に広く使用されている。水田でも使用されるが、施肥直後に灌水すると流亡しやすく、また施肥後長期間畑状態に置いた後灌水すると硝酸態窒素として流亡するので注意を要する。適切に使用すると肥料効果は硫酸と同等であり、特に無硫酸根肥料であるため土壌によっては勝ることがある。

本資材は一般的な肥料であり、本プロジェクトでの効果も大きいので要請通り選定する事が妥当と判断された。

2. 硫酸

<19, 000 t>

水に溶けやすい窒素質肥料で、土壌に吸着されやすく、作物にもよく吸収される。化学的には中性であるが、作物に窒素が吸収された後土壌中に硫酸根が残り、土壌を酸性化する。この様な肥料を生理的酸性肥料といているが、水田作、畑作の両方に最も広く使用されている基本的窒素質肥料の一つである。

硫酸は結晶性の化合物で、製法によって白色またはやや着色しているが、色による肥効の差はない。

本資材は一般的な肥料であり、本プロジェクトへの効果も大きいので要請通り選定する事が妥当と判断された。

3. 2,4-D アミン 720g/l SL

<52kl>

除草剤で、今日の本格的除草剤の草分として現在でも世界的に広く使用されている。我が国にも早くから導入され水田用として広く使用されている。ホルモン型の選択性除草剤で広葉雑草を枯らし、イネ科の作物には害作用が少ない。2,4-PAのナトリウム塩またはアミン塩を水田に使用する場合、前日に落水して雑草を露出させ、これらの水溶液を散布して一日そのままにしておいた後灌水する必要がある。

主要作物適用例：稲

本農薬は、本プロジェクトの対象作物である稲に効果があるので要請通り選定する事が妥当と判断された。

4. アトラジン 80% WP

<20 t>

トリアジン系の除草剤である。非ホルモン型、移行性で、ほとんどの雑草、特にイネ科雑草に強い殺草力を示すがトウモロコシは耐性を示すためトウモロコシ畑の除草剤と

して広く使用されている。

主要作物適用例：トウモロコシ、ソルガム等雑穀

本農薬は、本プロジェクトの対象作物であるトウモロコシ、ソルガム栽培に効果があるので要請通り選定する事が妥当と判断された。

5. ゲリフォセート 36% SL

<15kl>

非ホルモン型の非選択性除草剤である。植物体内で移行性があるため雑草の生育最盛期に茎葉散布すると効果があるが、土壌散布すると作用活性が失われる。一年生雑草のほか多年生雑草、雑灌木にまで幅広い効果があるため、樹園地、水田（耕起前）、刈り跡、非農耕地等の除草に使用される。

主要作物適用例：麦等雑穀、野菜、果樹、非農耕地

本農薬は、本プロジェクトの対象作物であるソルガムの防除に効果があるので要請通り選定する事が妥当と判断された。

6. ゴーグル

<1,000個>

用途：農薬散布などの防除作業において作業者の目の農薬被爆を防ぐために使用される。

分類：アイピース、ヘッドバンド交換性のタイプと非交換性のタイプがある。

構造：本体の材質は軟質塩化ビニール、アイピースの材質はセルロースアセテートおよびポリカーボネート（表面硬化処理したもの）である。透明度に優れた必要があり、曇り防止処理を施したもので、微量散布に使用することを考慮し、密閉性の高いものがよい。

本器材は要請品目にはないが、日本側は農薬の安全使用上必要であると判断し、1,000個を計画に付け加える事とした。

7. マスク

<1,000個>

用途：農薬散布作業時または埃の多い作業場において、作業者の農薬被爆および吸い込み防止、粉塵による呼吸器系障害防止のために使用する。

分類：使い捨て型と、吸収缶（カートリッジ）交換型がある。

構造：空気取入れ口にフィルターが装着され、粉剤や薬液はこのフィルターによって濾過され、正常な空気が作業者に送られる。顔の形にあったソフトな接顔体（クッション）は密閉性、耐久性に優れたシリコンゴム製が多い。吸収缶は農薬微量散布を実施した場合に有

毒ガスが発生することを考慮して、試験濃度20%で、破過時間が250分の国家検定基準に合格した、中・低濃度ガス用直結式小型防毒型マスクが望ましい。

本器材は要請品目にはないが、日本側は農薬の安全使用上必要であると判断し、1,000個を計画に付け加える事とした。

8. 手袋

〈1,000双〉

用途：農薬散布などの防除作業において、作業者の経皮による農薬被曝を防ぐために使用されるもので安全な作業のために不可欠なものである。

分類：手首まわり、長さの違いにより数種のサイズがある（SS、S、M、L、LL等）

構造：表地は軽くて動きやすいように、防水、撥水加工を施したナイロンタフタ地またはメリヤス編みの綿生地にポリウレタン系樹脂を塗布したものをを用い、また裏地は蒸れないようにメッシュ地を用いているものが多い。軽量で耐溶媒性、対摩耗性が優れた5指曲指型のものが通常用いられる。

本器材は要請品目にはないが、日本側は農薬の安全使用上必要であると判断し、1,000双を計画に付け加える事とした。

3-4 選定資機材案

以上の検討の結果、選定資機材案とその調達実績を表3-3にまとめる。

硫安は1990年から1994年まで、また2,4D-アミンは1991年と1992年に我が国から調達した実績がある。また、尿素に関しては、本年度初めて要請されたものである。

昨年度より実施されている、日本側の方針による農薬の安全使用を考慮した防護用具（ゴーグル、マスク、手袋）も、農薬の要請のある今年度初めて計画に入れた。

表3-3 選定資機材案

No.	標準要請 資機材リストNo.	品目	仕様	数量	カテゴリー	調達実績 (調達国)
1	FA-001	尿素	46%	3,000 t	肥料	なし
2	FA-002	硫安	21% N	19,000 t	肥料	90-'94 日本
3	HE-001	2,4D-アミン	720g/L SL	52,000 l	農薬	91,92 日本
4	HE-005	アトラジン	80% WP	20,000 kg	農薬	なし
5	HE-020	グリフォセート	36% SL	15,000 l	農薬	なし
6	BA-1	ゴーグル		1,000 個	農機	なし
7	BA-2	マスク		1,000 個	農機	なし
8	BA-3	手袋		1,000 個	農機	なし

4. 概算事業費

概算事業費は表3-4の通りである。

表3-4 概算事業費内訳

	肥料	農薬	農業機械	合計
C I F 価格	563,000	173,373	4,500	740,873

概算事業費合計 740,873円

第4章 プロジェクトの効果と提言

1. 裨益効果

本プロジェクトは、肥料、農薬を投入することにより単位面積当たりの収量を上げ、自給率の向上を図ることを目的としており、農民の生活水準の向上及び農村の活性化に大きな効果が期待できる。本プロジェクト実施による増産効果は表4-1の通り予測されている。このことは、内戦により荒廃した「エ」国の社会・経済を回復するために策定された「経済社会開発計画」に述べられている農民の再定住、雇用の促進、食糧の安全確保、外貨の流出軽減に寄与し、同国の社会的安定に多大な貢献をするものである。

表4-1 2KR実施による増産効果(予測値)

作物名	地区名	時期	作付面積 (ha)	単収 (t/ha)
米	全国	現在	16,520	3.50
		実施後		4.38
フリホール豆	全国	現在	79,870	1.00
		実施後		1.25
トウモロコシ	全国	現在	320,880	2.50
		実施後		3.13
ソルガム	全国	現在	148,890	4.00
		実施後		5.00

(出典：要請関連資料)

2. 提言

現在対象地域を全国に広げているが、対象地域を絞りこんで、一極集中的に資機材の投入を実施した方が、より中小農民に行き渡るという考え方もある。

また、現在同国国内の調達資機材の流通は、民間企業に負うところが大きいため、エンドユーザーに対するモニタリングが困難になっている。ゆえに他機関との調整・連携を図ると更に効果が上がると思われる。

資料編

国名	エル・サルヴァドル共和国
	Republic of EL Salvador

1995 1/2

一般指標				
政体	共和制	*1	面積	21.0 千Km ² *1
元首	フィルックス クリティアニ大統領	*1	人口	5,637 千人 (1993年) *1
独立年月日	1821年09月15日	*1	首都	サンサルバドル *1
人種(部族)構成	メスティゾ94%、インディオ5%	*1	主要都市名	サンティアゴ、サンサルバドル *1
		*1	経済活動可人口	1,700 千人 (1982年) *1
言語・公用語	スペイン語	*1	義務教育年数	4 年間 (1992年) *2
宗教	ローマカトリック75%	*1	初等教育就学率	71.0% (1990年) *2
国連加盟	1945年10月	*1	識字率	73.0% (1990年) *1
世銀・IMF加盟	1946年03月	*1	人口密度	258.0 人/Km ² (1992年) *2
			人口増加率	2.04% (1993年) *2
			平均寿命	平均 66.5 男 63.9 女 69.2 *1
			5歳児未満死亡率	42/1000 (1993年) *1
			カリ-供給量	2,330.0 cal/日/人 (1990年) *2

経済指標				
通貨単位	コロン	*1	貿易量	(1993年) *3
為替レート(1US\$)	1US\$= 8.76 (01月)	*3	輸出	732.0 百万ドル *2
会計年度	1月～12月	*1	輸入	1,912.0 百万ドル *2
国家予算	(1993年)	*2	輸入依存率	3.3% (1992年) *4
歳入	967.3 百万ドル	*2	主要輸出品目	コーヒー、砂糖、海老、綿花 *1
歳出	830.8 百万ドル	*2	主要輸入品目	天然資源、消費財、資本財 *1
国際収支	-148.2 百万ドル (1991年)	*2	日本への輸出	6.0 百万ドル (1992年) *5
ODA受取額	399.00 百万ドル (1992年)	*2	日本からの輸入	87.0 百万ドル (1992年) *5
国内総生産(GDP)	6,443.00 百万ドル (1992年)	*4		
一人当たりGNP	1,090.0 ドル (1991年)	*2	外貨準備総額	797.1 百万ドル (1995年) *1
GDP産業別構成	農業 10.0% (1991年)	*2	対外債務残高	2,131.0 百万ドル (1992年) *4
	鉱工業 24.0% (1991年)		対外債務返済率	13.3% (1992年) *4
	サービス業 66.0% (1991年)		インフレ率	10.0% (1992年) *2
産業別雇用	農業 11.0%	*2		
	鉱工業 23.0%			
	サービス業 66.0%		国家開発計画	*5
経済成長率	4.2% (1992年)	*4		

気象(1951年～1984年平均) 場所: San Salvador (標高 682m)													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均/計
最高気温	32.0	33.0	34.0	34.0	33.0	31.0	32.0	32.0	31.0	31.0	31.0	32.0	32.1℃
最低気温	16.0	16.0	17.0	18.0	19.0	19.0	18.0	19.0	19.0	18.0	17.0	16.0	17.6℃
平均気温	24.0	24.5	25.5	26.0	26.0	25.0	25.0	25.5	25.0	24.5	24.0	24.0	24.9℃
降水量	8.0	5.0	10.0	43.0	196.0	328.0	292.0	297.0	307.0	241.0	41.0	10.0	148.1 mm
雨期/乾期	乾	乾	乾		雨	雨	雨	雨	雨	雨		乾	

- *1 The World Factbook(C.I.A.)(1993)
- *2 Human Development Report(UNDP)(1994)
- *3 International Financial Statistics(IMF)(1995)
- *4 World Debt Tables(WORLD)(1994)
- *5 世界の国一覽(外務省外務報道官編集)(1993)
- *6 World Weather Guide(1990)

国名	エル・サルヴァドル共和国
	Republic of EL Salvador

1995. 2/2

*7

項目	年度	1989	1990	1991	1992
無償資金協力		2,043.46	2,382.47	2,515.30	2,699.97
技術協力		2,146.74	1,989.63	2,050.70	2,194.95
有償資金協力		5,161.42	5,676.39	7,364.47	5,852.05
総 額		9,351.62	10,048.49	11,930.47	10,746.97

*7

項目	歴年	1989	1990	1991	1992
無償資金協力		0.16	0.27	0.57	0.81
技術協力		3.31	7.96	6.88	10.51
有償資金協力		0.00	0.00	0.00	-3.46
総 額		3.47	8.23	7.45	7.86

*8

	贈 与 (1)		有償資金協力 (2)	政府開発援助 (ODA) (1) + (2) = (3)	その他政府資 金及び民間資 金 (4)	経済協力総額 (3) + (4)
		技術協力				
二国間援助 (主要供与国)	293.60	150.70	21.40	465.70	0.00	465.70
1. アメリカ	211.00	128.00	19.00	358.00	0.00	358.00
2. ドイツ	15.20	7.00	5.30	27.50	0.00	27.50
3. イタリア	11.30	6.90	0.00	18.20	0.00	18.20
4. 日本	11.30	0.80	-3.50	8.60	0.00	8.60
多国間援助 (主要援助機関)	95.10	14.70	-1.20	108.60	-17.00	91.60
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
そ の 他	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
合 計	388.70	165.40	20.20	574.30	-17.00	557.30

*9

技術	関係各省庁・機関→外務省
無償	関係各省庁・機関→外務省
協力隊	関係各省庁・機関→外務省

*7 Japan's ODA(Annual Report)(1993)

*8 Geographical Distribution of Financial Flows
of Developing Countries(OECD/OCDE)(1994)

*9 国別協力情報(JICA)

対象国農業主要指標

(エル・サルヴァドル共和国)

I. 農業指標

農村人口	1,957 千人 (1993年)	*1
農業労働人口	628 千人 (1993年)	*1
全労働人口における 農業労働人口の割合	35.0 % (1993年)	*1
カロリー／日／人	2,330 cal (1988～90年)	*2
灌漑面積	120 千ha (1992年)	*1
灌漑面積率	21.2 % (1992年)	*1

II. 土地利用

(1992年) *1

総面積	2,104 千ha
陸地面積	2,072 千ha (100 %)
耕地面積	565 千ha (27.3 %)
永年作物面積	165 千ha (8.0 %)
永年草地耕地	610 千ha (29.4 %)
森林	104 千ha (5.0 %)
その他	628 千ha (30.3 %)

III. 主要農業食糧事情

1人当り食糧生産指数	100 (1991年) (1979～81年=100)	*2
穀物輸入	4,299 百t (1991年)	*3
	2,856 百t (1993年)	
食糧援助	95.9 千t (1991/92年)	*4
食糧輸入依存率	24.5 % (1988/90年)	*2

出典 *1 FAO Production yearbook 1993
 *2 UNDP 人間開発報告書 1994
 *3 FAO Trade yearbook 1993
 *4 Food Aid in figures 1992

2. 参照資料リスト

- | | |
|----------------------|------------|
| 1) 肥料便覧第4版 | 農文協 |
| 2) 農薬ハンドブック1994年版 | 社団法人植物防疫協会 |
| 3) 新版農業機械学概論 | 養賢堂 |
| 4) FAO yearbook 1993 | |
| 5) 国別協力情報ファイル | 国際協力事業団企画部 |

JICA